

企業・団体の部

大賞 北王農林(株)・北王ホールディングス(株) 野菜の収穫体験とエコ料理教室 農作物の冬季無加温栽培への挑戦



十勝が誇る農業の価値、農業を持続できる環境の大切さを知ってもらうため、北王農林では地元の親子を対象に、畑で野菜を収穫し、簡易材を使って調理する農業体験教室を実施しています。一方グループ会社の北王ホールディングスではビニールハウスの太陽熱を利用した冬季農作物栽培を研究中。冬季の農作業が増え、雇用増にもつながりました。事業を続けることで環境を守る、それが企業としてのミッション。人と農業をつなぐ努力は今後も続きます。

【審査評】 農業は太陽光を原動力にして全生物を支える循環システム。その魅力と面白さを広く知ってもらう活動、寒さが厳しい冬の十勝でも工夫次第で野菜が育つことの実証努力が評価された。

奨励賞 内池・川田・住まいのウチイケ・宇佐美 武揚開発特別共同企業体(室蘭市) 「武揚の杜」エネファームタウン



水素を燃料とする家庭用燃料電池を導入した道内初の住宅開発事業を推進。市民協働で市民の認知拡大に努めました。その成果は販売実績に表れており、「人もエネルギーも循環する街づくり」は着実に形になりつつあります。

【審査評】 地元産産から水素を生産する地産地消のモデル住宅は、低炭素社会の実現を目指す先進的なモデル住宅で、住居にも快適なはずだ。

奨励賞 札幌市立北翔養護学校(札幌市) 子どもの健康を守るガス削減プロジェクト



子どもたちが快適に過ごせる校内環境と環境負荷の低減を目指し、夏の早朝の冷気を取り込む窓開放作戦、床暖設備に水を流す「床冷」、ボイラーの閉引き運転などを実践。3年間でガス使用金額を約978万円も節約できました。

【審査評】 夏は朝早くに窓を開けて熱気を追い出す、冬は手で除ける窓はあらかじめ暖かくなど、冷房や床暖水の消費エネルギーを賢く節約している。優れた発想と実行力に賛賞。参考になる工夫だ。

奨励賞 特定非営利活動法人 札幌福祉生活支援センター(札幌市) フードバンク札幌



短格外や売れ残りなどの食品を企業や個人から寄贈してもらい、福祉施設などを通じて配布。2015年度は延べ2万9千人に提供できました。これからも「もったいない心」を大切に、地域セーフティネットの構築を目指します。

【審査評】 何ら高価なものに、大量の食品が流通過程での行儀いや廃棄の目もみりまで無駄にならない。必要としている方々につなぐことによって、全てが活かされる。福川でも同様の活動が始まっている。全道に広がってほしい。



家族・サークルの部



奨励賞 杉本 直之さん(滝川市) 廃棄物から作る堆肥で家庭菜園

家庭の生ごみから農産廃棄物、道産産物の雑草、新聞古紙まで堆肥化し、150坪の家庭菜園で60種以上の農作物を栽培。ごみ削減と景観整備に加えて畑仕事と無農薬野菜で健康も維持でき、良いことずくめの杉本さんです。

【審査評】 堆肥化を進める微生物には、菌糸類である生ごみと、尿と、夜菜菜としての雑草の栄養バランスが大切。健全な土でおいしい作物を収穫してほしい。

9件の環境保全アクションに拍手!

第7回 北海道新聞 エコ大賞

北海道らしく地域に根ざしたテーマで環境保護を実践している活動を表彰する「第7回北海道新聞エコ大賞」。2月28日に行われた審査の結果、3部門計36件の応募の中から大賞2件、奨励賞7件が選ばれました。私たちの地球がある限り、エコアクションに終わりはありません。みなさんの「継続の力」に拍手!

小・中学校の部



大賞 旭山自然調査隊(札幌市) 旭山記念公園の オオムラサキのほごかつどう

都市部の生息数が激減している日本の国産「オオムラサキ」。旭山記念公園の保護活動を知った高橋浩史(はるし)くんは友達を集めて調査隊を結成。自然観察会を開いたり、『旭山新聞』を作って学校や町内会の回覧板で多くの人に活動を紹介しました。高橋くんから読者のみなさんへ。「みちなな公園にオオムラサキがいること、まもっている人たちがいることを知ってください。できればまもりたいという気持ちで旭山記念公園に遊びに来てください。」

【審査評】 生き物大好きなお友達と観察したことをSNSなどで広く知らせていて素晴らしい。オオムラサキが生き続けられる環境づくりを大切に守ってください。

奨励賞 江別市立中央中学校 科学部(江別市) 身近な水にまつわるエコ



江別市の生活排水から作られた再生肥料で野菜を育てる「あくプロジェクト」と、学校生活における節水を呼びかける「節水プロジェクト」を実施。水の恵みを肌で学んだ経験は、水の使い方を直す契機となったようです。

【審査評】 生活に不可欠な水の光景、そして使った後の行き先について知ることは、生活環境を守り続ける生きる基本。有機質の少ない火山灰台地の土壌改良に努め、循環農法によるおいしい作物を育てておられるのが素晴らしいです。

奨励賞 札幌市立緑丘小学校(札幌市) 地球に優しくする取組



エネルギー環境教育モデル校として独自の環境教育カリキュラムを作成。エネルギーの見える化や資源回収、発電実験教室、リサイクルチョークなどの意欲的な取り組みは「さっぽろ子ども環境コンテスト」でも高く評価されています。

【審査評】 これから大人になる自分たちの環境のために出来ることは何かを探し出し、全校を挙げて取り組んでおられるのが見事です。明るい世界を築きましょう。

奨励賞 札幌市立南雲東小学校(札幌市) エコプロ6-1



廃食油の再利用を推進する6年1組のエコプロジェクト。手作りチャランの配布や廃食油を使ったキャンドル作りなどを通じてエコの実践を呼びかけています。活動を通して生まれた地域の人々との交流も貴重な成果です。

【審査評】 お友達6人で廃食油を集めてろうそくをともし、冬場の大雪で通行する人々に廃食油によるイルミネーションの認知度を意識調査するなど、素晴らしい活動です。

特別企画 エコエピソード大賞

大賞 『圧力鍋は十八歳』 稲口 美由紀さん(根室市)

我が家では、色々なエコをしています。一番の思い出があるエコといえば、圧力鍋を使って家族で作る「みそ作り」です。圧力鍋は、前婚して直ぐに買ったものです。その年からみそ作りをしています。何年か使っているとパッキンがだめになり、ふき出ししたり、湯が沸かずに切りました。主人には、新しいのを買ったと言われても、その度にパッキンを交換したり、湯をみかいたりして大事に使っています。ここ何年かは、年末行事となり、一年分のみそを家族で作っています。みそは手作りすると安くとてもおいしいです。家族で何かをする事が少なくなってきたこの頃、このみそ作りは、家族が揃って一緒に出来る事、このままもう少し続けていきたいものです。圧力鍋さんにももう少し頑張ってもらいたいと思います。

【審査賞】 いつも、私の隣で照らしてくれてありがとう! 江田 美保さん(札幌市)

【審査賞】 『母娘同じ色鉛筆』 K.Z.さん(函館市)

【審査賞】 『ちいさくなった えんぴつがた。』 大西 優莉さん(札幌市)

審査委員長選評 お手本にしたい、継続の力。

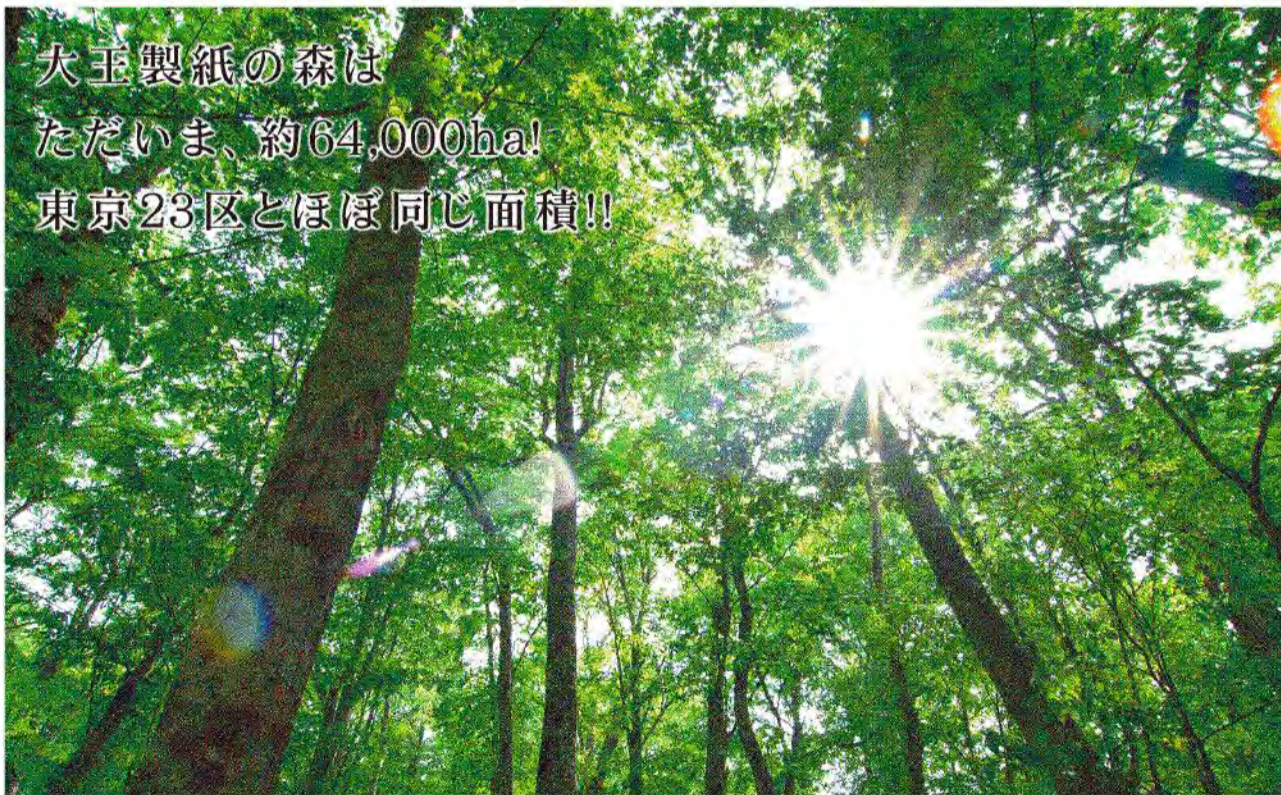


小林三樹 審査委員長

今年のエコ大賞には、エピソード大賞51点を合わせて87点もの応募をいただきました。さまざまな取り組みをなさっている方々の熱心なご努力の集積によって、北海道の環境が守られていることを実感しました。応募締め切りから長い日数をお待たせしましたが、審査委員全員が全ての応募資料を拝見させていただきました。多くの道民が、受賞作品からヒントを得て更なる行動につなげてほしいです。惜しくも選ばれた方々も、環境に良くかかると信じて活動をお続けくださいます。

- 【審査委員】 ●小林 三樹氏(公益財団法人北海道環境財団理事) ●ピソカ・ファクトリー氏(環境カウンセラー・札幌環境保全アドバイザー) ●大原 昌宏氏(北海道大学総合博物館教授) ●寺澤 祐子氏(フリーキャスター・気象予報士) ●菅井 祐子氏(フリーキャスター・気象予報士) ●寺澤 祐子氏(フリーキャスター・気象予報士)

▶ 詳細はホームページへ <http://adv.hokkaido-np.co.jp/eco/> 北海道エコ・アクション



大王製紙の森は ただいま、約64,000ha! 東京23区とほぼ同じ面積!!

■ 植林による森林再生と地球温暖化をもちたす CO2の吸収・固定化

製紙産業が原料とする木材は、石油・石炭と異なり、「育てる原料」「再生できる資源」です。「人と自然の共生」をコンセプトとした計画的な植林を行い、CO2を吸収・固定化する森林資源の保護と原料の長期安定的確保を図っています。

■ 海外植林プロジェクト

現状の海外植林の事業面積は、南米チリ・豪州タスマニア合計で約64,000haと、東京23区に相当する規模であり、植林面積は34,000ha(平成28年末)です。当社の海外植林事業は、チリ、タスマニアともに森林認証を取得しています。

■ 古紙の高度利用

新聞・段ボールなどの古紙だけでなく、CD付き残本古紙、ビニール貼り雑誌古紙、背糊付き雑誌古紙などから古紙パルプを取り出せる技術を先駆けて確立しました。

大王製紙株式会社

東京都千代田区富士見二丁目10番2号 TEL 03-6856-7500 <http://www.daio-paper.co.jp/>